

<小野崎氏 講演内容の概略>

小野崎氏はかつて外資系医療機器企業での勤務経験もあることから、「医療機器大好きです！」と宣言いただいた後、以下の内容について講演頂きました。

1. 日本の医療をとりまく環境（人口減少、経済・財政、政治）
2. 改革の方向性：保健医療2035の提言の3つの柱
 - (1) 保健医療の価値を高める（Value Based Healthcare）
 - (2) 個人の健康や主体的選択を社会で支える
 - (3) 日本がグローバルな保健医療をリードする
3. これからの医療機器産業で求められる視点
 - (1) Evidence based policy（費用対効果を含む）
 - (2) 地域社会や自治体との連携
 - (3) グローバル経営と人材育成

現在、医療費抑制圧力が高まる中、費用対効果に優れた医薬品までもが高価であることだけで緊急引下げの対象となっていることもあり、世界的トレンドである。このような流れは今後医療機器にも波及することも予想されるため、今後業界団体が政策の対案をしっかりと持って、一致団結してワンボイスを持つことが重要。また、今後アウトカム志向へ診療報酬体制がシフトする中、しっかりエビデンスを示す必要があることを強調されていました。

講演の雰囲気はさながら「業界への応援演説」といった感じで、大変盛り上がりました。

